

平成31年4月1日発行  
第8号

# じょうけい

真宗大谷派 至徳山 浄慶寺



本願寺抱牡丹紋



東六条八藤紋

前に生まれん者は後を導き  
後に生まれん者は前を訪え

『教行信証』化身土・末巻

※訪え⇒尋ねる・質問する

## 山門再建について

総代 中村 皓二

至徳山浄慶寺の山門として、あの場所に百数十年頑張って守ってくれた山門も開かずのまま二十数年経過いたしました。

平成29年に山門再建について皆様のご賛同を頂き、翌30年より、心からのご懇志を頂き、何とか計画の一部を除いて着工の目途がつき、平成最後の年と新しい年号の年に着工出来る事は皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。

これまでの経過を述べますと、平成30年6月に建築許可が下り、木材は早期乾燥をする為に、7月に購入をして確保しました。

同年9月には、山門建築をお願いしている宮大工さんの所で原寸図検査を行い、確認の上木材加工のほか、彫刻その他、お願いして参りました。年末には加工状況の視察に大刀洗の加工場に出向き進行状況を確認して来ました。

いよいよ平成31年3月25日(月)より、煉瓦塀・山門及び周囲の塀、参道その他解体工事にかかります。完成予定は、新しい年号の年11月末頃の竣工となります。

つきましては、皆様にお願いがございます。

特に3月25日～7月末頃までは、工事の関係で駐車場が半分位しか利用できなく成ります。法事その他で駐車台数が、ご心配の方は事前に住職にご連絡下さい。(090-2318-3268)

山門解体に先立ち平成31年3月21日のお彼岸の法要の前に門徒一同で感謝をこめて山門屋根瓦の一部を手渡して降ろす儀式を行う事をもって、山門再建のこと始めと成し、無事なる山門の竣工へ向けての願いと成します。

現在の山門の屋根瓦は、今度新設される山門両脇の袖壁の瓦に利用して、歴史を残します。

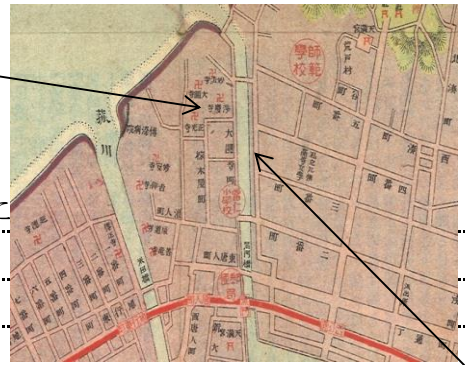
完成までには、色々ご迷惑をお掛けする事と思いますが、温かく見守って下さい。



# 時の移ろい

## ー浄慶寺とその境界のことー

旧・東唐人町の北端、黒門川に沿った片側町を唐人町堀端といった現在、唐人町三丁目に入っています。黒門川の出口には築(やな=養魚のための海水の調節、あるいは魚捕りの仕掛け)がありました。このあたりの通りに面して、浄慶寺と妙法寺の二つのお寺があります。



浄慶寺

黒門川

浄慶寺は、真宗東本願寺の直末(じきまつ=直接の末寺)で、山号は至徳山。開基は、宗教です。宗教は、姓を大塚といい父は豊後の大友の家臣で大塚右京といい、紀伊の国で仏門に入り、法名を宗円と改め、のちに筑前の国へ入りました。

宗円には四人の男の子があったが天正十九年(1591年)糸島の今津に一寺(この時は寺号が無い)を建てて長子の宗教を開基としました。次子は、今津・法教寺、三子は今津・清教寺、末子は、桜井・専光寺にそれぞれ据えました。

宗教のあとを継いだ二世・宗興が元和七年(1621年)に、寺を荒戸に移し寛永十二年(1635年)に浄慶寺という寺号を許されています。

それから十四年後の慶安二年(1649年)福岡藩二代藩主・黒田忠之の時に荒津山に東照宮が建立されることになったので荒津山および荒戸にあった寺は、すべて他の場所に移されることになりました。浄慶寺は、現在の地の堀端に移されました。その後、寛永12年(1672年)西本願寺より東本願寺に転派しました。

それから、約380年経った今も現在の地で浄慶寺は、脈々と継承されているわけです。

平成20年(2008年)には、本堂等の老朽化が激しくなり、現在の本堂及び庫裏等の落慶となりました。



お寺の山門前を流れていた黒門川は、昭和63年に福岡市の都市整備計画で暗渠となり、水面を見ることは叶いませんが、黒門川通りとして交通の要所となっています。妙法寺は日蓮宗・本法寺(京都)の直末であります。

開山は旧・蓮池(現・中呉服町)妙蓮寺、二十三世の住持、竜玄院日応で正保二年(1645年)に創建されました。

(総代・中村皓二氏資料提供)

### 本堂で通夜・葬儀ができます

お寺本堂での通夜・葬儀を希望する場合は以下の手順です。

① 下記の何れかの葬儀社を選択して、『浄慶寺の門徒です。本堂でお通夜・葬儀を依頼します』とお伝え下さい。

◇みんせい葬祭・福岡市博多区大博町(担当者:竹内)

092-271-7422(24時間受付)

又は090-1342-0006(24時間受付)

◇お葬式のあおやぎ・福岡市早良区飯倉

(担当者:龍相=りゅうそう)092-865-4400(24時間受付)

②お寺(住職)に、ご一報をお願いします。(住職携帯電話:090-2318-3268)

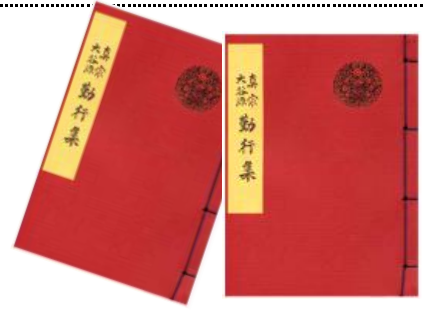
※本堂でのお通夜の時間は、午後10時までと、させていただきます。  
 ※お寺での宿泊は出来ませんので、ご了承ください。  
 ※お通夜のみ、自宅か葬儀社斎場での執行で、葬儀は本堂での執行も



## 真宗（大谷派・東本願寺）への導き

### 《第七回》

## 正信偈（じょうしんげ）について



「正信偈」は、私たち真宗門徒にとって、はるか以前からお内仏の前でおつとめしてきたお聖教です。私たちの宗祖である親鸞聖人は、本願念仏の教えが釈尊の時代から七高僧を経て、ご自分にまで正しく伝えられてきたことを、深い感銘をもって受けとめられました。「正信偈」は、親鸞聖人がその感銘を味わい深い詩（偈文）によって、後の世の私たちに伝え示してくださった「いのちの偈」なのです。

私たちは日ごろ、真宗の『勤行集』によって「正信偈」に接していますが、それはもともと、親鸞聖人が著された『教行信証』に収められているものです。『教行信証』というのは、親鸞聖人の代表的なご著作です。聖人は、このご著作によって、浄土の教えが「真実」であることを顕らかにされたのです。その意味で、真宗の教えの根本となる聖教であるわけです。

「正信偈」は、詳しくは「正信念仏偈」といいますが、それは、「念仏の教えを正しく信ずるための道理を述べた歌」というほどの意味です。漢文で書かれた詩で、七文字を一句とし、百二十句、六十行からなっています。

親鸞聖人は、『教行信証』に「正信偈」を掲げられるに先だって、まず「正信偈」をお作りになった、そのお気持ちを、

**「しかれば大聖の真言に帰し、大祖の解釈に関して、仏恩の深遠なるを信知して、正信念仏偈を作りて曰わく、」**（聖典203頁）と述べておられます。

「大聖の真言に帰し」とあるのは、釈尊が説かれた真のお言葉を依り処とする、ということです。釈尊は、『大無量寿経』というお経をお説きになりました。そしてこのお経のなかで、阿弥陀如来がすべての人を救いたいと願われた、いわゆる弥陀の本願のことを教えられたのです。それが大聖の真言、つまり釈尊の真のお言葉ということなのです。親鸞聖人は、「正信偈」を作るにあたって、この『大無量寿経』の教えを依り処とされたというわけです。

次の「大祖の解釈に関して」というのは、インド・中国・日本の三国に出られた七人の高僧が、『大無量寿経』の教えを正しく受けとめられた、そのご解釈を手がかりにする、ということです。親鸞聖人は、『大無量寿経』についてのご自分の見解を主張しようとされたのではなく、三国の七高僧のご教示を仰がれたのです。親鸞聖人は、ご自身を見つめるのに大変厳しい眼をおもちでありました。ご自身を、愚かで罪深い凡夫であると見極めておられたのです。実は、そのような凡夫を何としても助けたいというのが、『大無量寿経』に説き示されている阿弥陀如来の本願なのです。親鸞聖人は、このような『大無量寿経』の教えを依り処とし、また、このお経の教えについての大先輩がたのご解釈によって、釈迦牟尼仏（釈尊）と阿弥陀仏の恩徳がまことに深いことを信じさせていただき知らせてもらったことを喜んでおられるのです。そのことを「**仏恩の深遠なるを信知して**」とっておられるのです。そして、自ら信ずるとともに、人にも教えて仏の恩恩の深いことを信じさせるために、「正信偈」をお作りになったのです。

私たちが、日々のお勤めのときに「正信偈」をあげ、またこうして「正信偈」の「こころ」に触れようとするのは、愚かで、なさけない生き方しかできていない者が、親鸞聖人のお勧めの通りに、「大聖の真言」と「大祖の解釈」を讃嘆し、その恩徳に感謝することになるのです。



### 行事予定

- 永代経法要 5月12日(日) 13時30分から
- 盂蘭盆会法要 8月13日(火)~15日(木) 3日間とも10時から
- 本堂開放 8月11日(日)~15日(木) 期間中、10時から17時まで
- 秋の彼岸法要 9月23日(祝・月) 13時30分から
- 彼岸本堂開放 9月20日(金)~23日(祝・月)

### 文芸欄

※このコーナーに、川柳・短歌・俳句などを、お寄せください。

峠越え雨の匂いが追ってくる  
 縄文の土偶手抜きも居て愉快  
 発言の成り行きばかり追うメディア  
 歪む背をびりつと正す柚子胡椒

川柳

山口由利子

### 坊守のついで

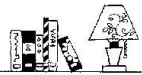
皆様いかがお過ごしですか？ところで、浄慶寺墓地の永代供養墓には「俱会一处」という言葉があります。

この言葉は、「阿弥陀経」というお経にある言葉で「浄土で共に出会う」という意味があります。二年前に逝去した実家の父親は、体中に転移した癌を抱えた体で、「親鸞聖人の念仏の教えを学んでほしい」と私に語りかけました。私たち家族にとっては、いわゆる「よき父親像」とは少し違った父は、幼い頃から一度も「勉強しなさい！」と叱る事のない人でしたので、私をはじめ家族は大変驚きました。

今春、九州大谷短期大学を卒業する予定ですが、入学のきっかけの一つには、父の言葉がありました。卒業を目前にして「学ぶこと」とは、その教えをもとに「人の心と出会う」ことなのではないかと感じています。

この二年間では、浄慶寺のご門徒様をはじめ、多くの方々に励ましていただき、皆様の暖かいお心に触れることができました。

そうした大切なものとの出遇いがあることを父は最後に話してくれたのかなと感じています。



### 編集後記

平成最後のじょうけいの発行です。元号が変わって、またひとつ時代が移ろっていきます。山門も、いよいよ工事が、始まります。この寺報にも自由な題材で寄稿してください。

### ご命日のつどいへのお誘い

毎月28日には、午後1時30分より親鸞聖人のご命日のつどいを開催しています。親鸞聖人のご命日が28日であります処から、この日に門徒が集い正信偈を、お勤めしています。

また、読経の練習や写経なども行い、お茶を飲みながらの語らいの時も過ごしています。どうぞ自由に参加してみてください。時間 13:30~16:00頃まで(※出入り自由です)



じょうけい 第8号

《発行》  
 真宗大谷派 浄慶寺 大塚展彦  
 浄慶寺門徒会 川嶋正實  
 〒810-0063  
 福岡市中央区唐人町3-10-49  
 《編集》  
 浄慶寺寺報編集担当 塩川大一